

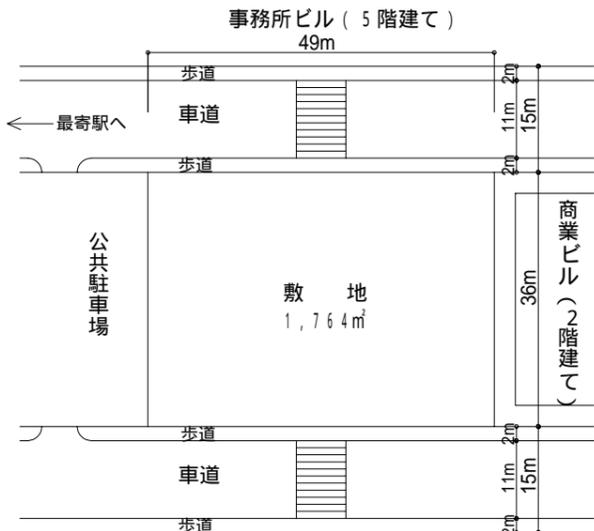
設計課題 「大浴場のあるビジネスホテル」

設計条件

この課題は、ある地方都市の市街地において、「ビジネスホテル」を計画するものである。このホテルにおいては、宿泊客の為の大浴場があり、所謂スーパー銭湯形式として地元的一般客も利用できるものとする。
また、建物においては、中庭を中核とした憩いの場となるよう計画するものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできる。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域。また、建ぺい率の限度は80%、容積率の限度は400%。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好である。
- 気候は概ね温暖であるが、真冬の夜間には摂氏0度以下となることもある。



2. 建築物

- 構造、階数等
鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又はこれらの併用とし、地上5階建ての1棟の建築物とする。なお、梁については鉄骨造としてもよい。
- 床面積の合計
床面積の合計は、4,200㎡以上、4,600㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しない。
- 要求室
下表の室は、全て計画する。

部門	室名	床面積	特記事項	設置階
ビジネスホテル部門	シングルルーム (計56室)	計約840㎡	・1室当たり約15㎡とする。 ・バス、トイレ、洗面付きとし、3点式ユニットバスを使用してもよい。	2~5階(基準階)に設ける。
	ツインルーム (計19室)	計約380㎡	・1室当たり約20㎡とする。 ・バス、トイレ、洗面付きとし、3点式ユニットバスは使用しない。	
	ハンディキャップルーム (計4室)	計約80㎡	・1室当たり約20㎡とし、各階に設ける。 ・身障者に配慮したバス、トイレ、洗面付きとする。	
	和室 (計4室)	計約160㎡	・1室当たり約40㎡とする。 ・バス、トイレ、洗面、水屋、押入付きとし、3点式ユニットバスは使用しない。	
	談話コーナー (計4箇所)	適宜	・ソファ、自動販売機を設置する。	
	ランドリー (計4室)	適宜	・コイン式洗濯乾燥機を設置する。	
	エントランスホール1	適宜	・風除室、応接コーナーを設ける。 ・上部に吹抜け(面積適宜)を設ける。 ・大浴場部門へ行き来できるものとする。	
大浴場部門	レストラン	適宜	・30人程度が利用できるものとする。 ・厨房、テーブル等を設ける。 ・外部からも直接アプローチできるものとする。	1階又は一部を2階に配置してもよい。
	貸会議室	計約120㎡	・無柱空間とする。 ・可動間仕切りにより2室(約60㎡/1室)に分割して個別に利用できる。	
	大浴場	計約250㎡	・男性用、女性用として2室を設ける。 ・それぞれに脱衣室、多機能便所、洗面コーナー、前室、サウナ、シャワー、大浴槽、洗い場を設ける。	
管理部門	フロント1	適宜	・ホテル利用者の出入りを管理し、受付カウンターを設ける。	1階に設ける。
	クローク	適宜	・フロント1に隣接させる。	
	フロント2	適宜	・大浴場利用者の出入りを管理し、受付カウンターを設ける。	
	事務室	適宜	・5人分の事務スペースを確保する。	
	職員更衣室	適宜	・男性用、女性用として2室を設ける。	
	休憩・仮眠室	適宜		
	リネン室	適宜	・2~5階に各1室設ける。	
設備スペース	適宜	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調・換気、給湯、給排水、電気等)、屋外機置場等を計画する。		
・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。				

試験場	受験番号	氏名

3. その他の施設等

- 中庭(4辺を建物に囲まれた屋外とする。)を、次のとおり計画する。
(1)まとまったスペース(直径10m以上の円が1つ入るスペースとする。)で150㎡以上(ピロティ、上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)を地上、または1階の屋上に設ける。
貸会議室からも直接行き来できるものとする。
植栽のほか、ベンチ、テーブル等の屋外ファニチャーを設置する。
- 戸外風呂は、次のとおり計画する。
男性用、女性用とし、戸外にそれぞれ浴槽(約5㎡/1箇所)を設ける。
大浴場から直接行き来できるものとし、プライバシーに配慮する。
- 駐車場は、地上に設け、平面駐車とし、車いす使用者用として2台分、サービス用として1台分とする。また、その他の利用者用及び従業員用の駐車場については、隣地の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 自転車置場は、大浴場利用者用として30台分(1台当たり0.5m×2m程度)。
- ごみ置場(面積適宜)を設ける。
- (1)~(5)の「その他の施設等」は、床面積に算入しない。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
建築物はバリアフリー、セキュリティ等に配慮する。
建築物についてはリラクゼーション、防音、プライバシー等の快適性に配慮する。
ビジネスホテル部門、大浴場部門、及び管理部門の異なる機能を適切にゾーニングした計画とするとともに、各部門の動線に配慮する。
敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
構造種別、架構形式、スパン割を適切に計画する。
耐力壁等を設け、耐震に配慮する。
部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
空気調和・換気設備、給湯・給排水衛生設備、電気設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。
エレベーターを適切に設ける。

要求図書

答案用紙 及び答案用紙 の定められた枠内(寸法線は枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200	1階平面図兼配置図及び基準階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ.室名等 ハ.耐力壁等(凡例にしたがって図示し、凡例にないものを使用する場合は空欄に追加記入する。) ニ.設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置 ホ.設備計画に応じた設備スペースを図示し、主な設備機械の名称を記入する。(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。) ヘ.断面図の切断位置 ト.レストラン、貸会議室、大浴場、喫茶室、及び中庭の床面積 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ.戸外風呂の位置 ロ.建築物の出入口 ハ.駐車場(台数及び出入口を明示。) ニ.駐輪場(台数を明示。) ホ.ごみ置場、通路、植栽等 基準階平面図は2階を表記するものとし、次のものを図示。 イ.代表的シングルルーム、ツインルーム、ハンディキャップルーム、和室の室内プランと面積 ロ.シングルルームの表示(S1、S2、S3・・・) ハ.ツインルームの表示(T1、T2、T3・・・) ニ.直下階の屋根、ひさしとなる部分 ホ.2階にのみ存する部分を破線 で囲み、引き出し線により補足説明を行う。
(2) 基準階梁伏図 1/200	3階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。 構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・部材・断面寸法を追加記入する。
(3) 断面図 1/200	切断位置は、宿泊室および貸会議室を含む建物短辺方向とし、建築物の全体の立体構成(地上1階~5階)が分かる断面とする。なお、塔屋については記入しなくてよい。 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入。 梁及びスラブの断面を図示する。 屋上に設備スペースを設けた場合は、点線で図示し、主な設備機械の名称を記入する。

2. 面積表等(答案用紙 に記入)

地上1~5階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙 に記入)

- 建築計画について、次の ~ の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
建築物の外部動線について、工夫したこと
宿泊者と宿泊者以外の大浴場利用について、内部プランニング、動線、課金方法等について、工夫したこと
宿泊における快適性について、工夫したこと
建築物のセキュリティについて、工夫したこと
- 構造計画について、次の ~ の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割とこれらを採用した理由
貸会議室を無柱空間とする構造計画について、工夫したこと
耐震計画について、工夫したこと
- 設備計画について、次の ~ の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
建築物の宿泊室に採用した空調・換気方式と採用した理由
建築物の宿泊室に採用した給湯方式と採用した理由
設備スペース及び設備シャフトの配置計画について、工夫したこと